

2012 年度第 4 回学術委員会 議事録（案）

日 時：平成 25 年 3 月 7 日(木) 16:00～18:00

場 所：日本建築学会北海道支部事務局会議室

出席者：佐藤、田沼(欠席)、伊東、斉藤、森傑(代理：谷口)、坂井(代理：岡本)、羽深(欠席)、長谷川(代理：谷口)、草刈(代理：森(太))、谷口(尚)、谷口(円)(欠席)、南、森(太)、後藤(欠席)
支部長：岡田
事務局：菊地、 記録：岡本

冒頭

議事前に資料番号を振った。会議次第[資料 1]、以下[]内表記の通りである。

議事

1. 第 3 回議事録(案)の確認 [資料 2]

- ・資料に基づいて内容を確認し、次を修正して承認された。
5) のタイトルを修正 誤：文化週間企画 → 正：工業高校巡回講演
- ・旅費精算に必要となる領収証は飛行機と新幹線については確定、鉄道や路線バスなど支部の各地域内についても必要となりそうであることが紹介された。

2. 本部学術推進委員会報告ほか

- ・特になし

3. 専門委員会・特定課題研究委員会報告

1) 構造専門委員会 [資料なし]

- ・工業高校巡回講演のテーマを提出したことが報告された

2) 材料施工専門委員会 [資料なし]

- ・工業高校巡回講演のテーマを提出したことが報告された
- ・フライアッシュに関する支部特定研究が委員会活動の軸に想定されることが伝えられた
- ・次期主査が長谷川先生になる見込みであることが報告された

3) 環境工学専門委員会 [資料 3-3]

- ・資料に基づき次の事項が報告された
- －3 月 8 日に室工大で第 7 回を迎える EGG's を開催する
- －今年度は初めて札幌を離れて開催、ポスターコンペなど例年通り盛り上がりを見せる様子

4) 建築計画専門委員会 [資料なし]

- ・3 月 26 日に今年度最後の委員会を開催し勉強会の性格も含んでいることが報告された

5) 都市計画専門委員会 [資料 3-5]

- ・資料に基づき次の事項が報告された
- －3 月 26 日に委員会勉強会を開催予定であること
- －来年度開催予定のシンポジウムは札幌市の路面電車延伸計画関連のテーマを予定すること
- －来年度全国大会において実施予定の 5 日間学生シャレットを支援する予定であること

6) 歴史意匠専門委員会 [資料なし]

- ・なし

7) 北方系住宅専門委員会 [資料 3-7]

- ・資料に基づき次の事項が報告された
 - ー住まいまちづくり支援建築会議・市民セミナーの検討状況
 - ー今年度特定課題の成果がまとまり製本発注済で、支部研で発表予定であること
 - ー3月10日に環境工学専門委員会との共催で木造新築の夕張市営住宅見学会を開催すること

8) 都市防災専門委員会 [資料なし]

- ・なし

9) 特定課題研究委員会

①寒中コンクリート工事合理化研究委員会 [資料 3-9]

- ・資料に基づき次の事項が報告された
 - ーとりまとめが予定通り進むなか研究成果を現場に反映する方策の議論が高まっていること
 - ー成果を支部研で発表予定であること

②三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居研究委員会 [資料なし]

- ・既出北方系専門委員会にて報告済

③奥尻島生活再建研究委員会 [資料 3-11]

- ・資料に基づき次の事項が報告された
 - ー都市計画学会との連携に取り組んでいること
 - ー奥尻の津波被害から20年となり大会でも研究成果を報告する予定であること

④厳冬季被災を想定した避難所運営手法に関する研究委員会 [資料なし]

- ・釧路町と浜中町において避難所運営研修を実施し、うち浜中町の研修の様子は3月8日朝のNHKでリポートされることが報告された
- ・帯広市において厳冬季避難訓練と避難所運営研修を実施し、避難所の温熱環境などに関して調査を実施したことが報告された。避難訓練の様子は3月8日19:30のクローズアップ現代で紹介されることが報告された
- ・今冬2度あった大規模停電を受け、登別市において避難所の温熱環境を主題としたアンケートを実施済みであること、同じ項目で猿払村においてもアンケートを実施する予定であることが報告された

4. 支部研究発表会 [資料なし]

- ・支部論文投稿システムを北大生協と構築中であり、3月11日に実行委員会委員を対象とした仮アップロードと動作検証を踏まえ、3月18日に正式アップロードを実施し同日より投稿を受け付ける予定であることが報告された

5. 日本建築学会北海道支部技術賞について [資料 5]

- ・3件の応募に対し質問状を送り、回答を受けて2月27日に選考ワーキングを開催したことが報告された
- ・各応募について技術賞に相応しいかどうかを判断するため、選考ワーキングで整理された

それぞれの概要が説明された

- ・ワーキングとしては 3 件ともに素晴らしい技術であるという認識のもと、技術賞の評価項目と照らして、“地域性”と“継続性・継承性”の 2 点において、亀田工業株式会社が最も相応しいと考える旨報告された

- ・上記を受けて参加委員 8 名で挙手により選出を行い、北海道大学情報基盤センタープロジェクト 0 票、飯田ウッドシステム株式会社 0 票、亀田工業株式会社 8 票となり、亀田工業株式会社を技術賞受賞対象に選出した

- ・選出・検討プロセスでの選考ワーキングの位置付けについての意見があった。

6. そのほか

□工業高校巡回講演についての意見や認識

- ・すべての専門委員会からテーマを集約し、分野・系統をまとめるなどして、当学会としてバランスのよいテーマ提示をするなども検討できないか

- ・工業高校 12 校それぞれに関わり方の特徴があり、担当の温度差や同一系統のテーマを継続するなどの様子もある

- ・現実的に開催されてきたものは、工業高校教員の授業の一コマに組み込まれるかたちが多いようである

以上